

第 68 回地域農林経済学会大会のご案内

2018年6月15日

地域農林経済学会

第 68 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催いたします。会員の皆様はもとより、非会員の皆様もぜひご参加ください。

1. 期 日 2018年10月12日(金)～10月14日(日)

2. 日程および会場

2-1. 開催地 東京農業大学（世田谷キャンパス）

住所 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

連絡先 土田志郎 TEL : 03-5477-2697 E-mail : s3tsuchi@nodai.ac.jp

大浦裕二 TEL : 03-5477-2372 E-mail : yo205309@nodai.ac.jp

2-2. 地域農林経済学会大会日程

開催場所・時間は何れも予定です。必ず、大会前に学会ホームページでご確認ください。

【第1日】 10月12日（金）地域シンポジウム

(農大アカデミアセンターB1F・横井講堂 13:00~16:10)

【第2日】 10月13日(土) 大会シンポジウムおよび個別報告

○個別報告 [9:00~12:00] (1号館教室) (受付開始 8:30)

○会長挨拶 [13:00～13:05]

(農大アカデミアセンターB1F・横井講堂)

○大会シンポジウム [13:05～16:25]

(農大アカデミアセンターB1F・横井講堂)

○総会 [16:30~17:30]

(農大アカデミアセンターB1F・横井講堂)

○懇親会 [18:00～20:00]

(キャンパス内レストランすずしろ)

【第3日】 10月14日（日）個別報告・特別セッション

○個別報告 [9:00～10:00] (1号館教室)

○国際ミニシンポジウム [10:00~12:30] (1号館 2F 241 教室)

○特別セッション [10:00~12:30] (1号館教室)

○個別報告 [13:30~16:30] (1号館教室)

※終了時刻は変更することがあります

【その他】 10月12日（金）

編集委員会 [16:45～17:45]（1号館2F 221教室）

理事会 [18:00～20:00]（1号館2F 221教室）

10月13日（土）

個別報告優秀賞審査委員会 [12:00～12:50]（1号館2F 221教室）

同打ち合わせ会議 [8:35～8:55]（1号館2F 221教室）

新理事会 [17:35～17:55]（1号館2F 221教室）

シンポジウム打合せ [10:30～13:00]（1号館2F 225教室）

（注）大会会場の地図・交通案内等は、本文末尾をご参照ください。

2-3. 参加費用等

- ・大会参加費：普通会员 3,000 円，非会員 4,000 円，学生会員・学生非会員 1,000 円
- ・懇親会費：普通会员 5,000 円，学生会員 3,000 円

2-4. 大会・懇親会・個別報告等の申し込み，各問合せ先に関して

以下の web サイトで，受付を行います。期日までに申し込みをお願いいたします。

大会および懇親会への参加申し込み（締め切り日時：10/5（金）23:00）

URL：<https://business.form-mailer.jp/fms/bd23a4e788440>

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：7/27（金）23:00）

URL：<https://business.form-mailer.jp/fms/331d723232976>

個別報告で用いるプレゼンファイルの提出（締め切り日時：10/5（金）23:00）

URL：<https://business.form-mailer.jp/fms/1d394ab732977>

個別報告「大会前原稿」の提出（締め切り日時：10/5（金）23:00）

URL：<https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>

※詳細・各パスワードは，【別紙】を参照ください。

国際ミニシンポに関する問い合わせ先

jito@kais.kyoto-u.ac.jp 伊藤順一（京都大学）（国際担当理事）

特別セッションに関する問い合わせ先

nakatsuka@port.kobe-u.ac.jp 中塚雅也（神戸大学）（企画担当理事）

個別報告申し込み，プレゼン用ファイル提出，個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

hisashi@okayama-u.ac.jp 駄田井久（岡山大学）（企画担当理事）

個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

editors@a-rafe.org 地域農林経済学会常任編集委員会

3. 地域シンポジウム

「都市農業の多面的価値と展望－生消連携と農地保全を考える－」

10月12日（金）[13:00～16:10]

近年、「都市農業振興基本法」が施行されるなど、都市農業の維持発展は、農政上の重要課題の一つとなっている。その背景として、都市の農業者の多年にわたる努力により、消費者との連携を重視した取り組みが行われ、都市農業の持つ多面的な価値が広く一般に認識されるようになってきた点が挙げられる。こうした状況下において、開催校・東京農業大学が立地する東京都世田谷区には、80万超の人口を抱える中で、現在も約90haに及ぶ農地があり、そこを舞台に究極の都市農業が展開している。

そこで、本地域シンポジウムでは、対面方式による農産物直売、農業体験農園、伝統野菜の復興活動、学校給食への食材提供など、生産者と消費者の連携に基づく多様な都市農業の展開の意義について討議するとともに、農地保全の対策を含む都市農政の現局面について考察し、都市農業の多面的価値と将来への展望を明らかにする。

座長：五條満義（東京農業大学）

第1報告：「都市農業政策の現局面と23区内農業の底力」（仮題）

北沢俊春（東京都農業会議事務局長）

第2報告：「生産者と消費者の連携に基づく都市農業の展望」（仮題）

河原正幸（河原農園経営者、元・JA世田谷目黒青壮年部長）

第3報告：「世田谷農業の持つ意味と伝統野菜の復興」（仮題）

大塚信義（大塚農園経営者、元・世田谷区農業経営者クラブ会長）

コメンテーター：山田崇裕（東京農業大学）

4. 大会シンポジウム

「実験手法による地域農林業研究の応用と展望」

10月13日（土）[13:05～16:45]

近年、経済学はじめとする社会科学分野においても、因果関係の解明には実験手法の有用性が認識されている。第67回地域農林経済学会大会では、「経済学分野における実験手法」に関して理論的なアプローチを行った。計量経済の様な観察データを用いた従来の分析手法と実験手法との違い、実験手法の有用性に関しての意見交換が行われた。しかし、実験手法が地域農林業研究への様に応用可能性に関しては、十分な議論が行われなかった。

本シンポジウムでは、「実験手法による地域農林業研究の応用と展望」をテーマに、3名の実験経済研究者に自身の研究事例の紹介いただき、限られた予算・時間制約の中での、客観的な実験データ導出・検証を行うための工夫や教訓を整理する。また、地域農林業研究における実験的手法の展望を討論する。

座長：松下 秀介（筑波大学）

演題1：地域農林業政策の評価と実験研究の可能性

栗山浩一（京都大学大学院農学研究科）

演題2：自然実験研究の動向と国内農林業問題への応用

野村久子（九州大学大学院農学研究院）

演題 3 | オークション実験を用いた地域振興事例

若松宏樹 (中央水産研究所経営経済研究センター)

コメンテーター：河村能夫 (龍谷大学名誉教授), 胡 柏 (愛媛大学)

5. 国際ミニシンポジウム・特別セッション

5-1. 国際ミニシンポジウム

10月14日(日) [10:00~12:30]

本大会では、以下のテーマで、国際ミニシンポジウムを開催いたします。

An International Symposium on Agri-environmental Policies: Combining Theory with Practice

The past decades have witnessed the development of agri-environmental policies (AEPs) that entail the transfer of public funds to farmers (direct payments), both in the context of developing and developed countries. The public policy objective for intervening is not only to incentivize the stewardship of natural and environmental resources in rural areas, but also to remedy a market failure stemming from the divergence between social and private benefits. A growing body of literature on this topic has addressed many of the relevant issues, including the definition and classification of AEPs, motivation of eligible farmers and/or communities to participate in AEP programs, program design and targeting for enrollment, conditionality for AEP payments, performance and permanence of the fiscal spending, conflicts and tradeoffs between various policy goals, complementarity with other policy instruments, and so on. However, there yet remains much to be learned about the challenges and future evolution of AEPs. This symposium evaluates, in particular, the AEPs that have been implemented in Japan and the EU. The hosting body, the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics provides fellow members with an opportunity to give some thoughts to this emerging issue of academic and practical importance.

なお、質疑応答では日本語の使用を可とします。

国際ミニシンポジウムに関する連絡先: jito@kais.kyoto-u.ac.jp 伊藤順一 (京都大学)

5-2. 特別セッション

10月14日(日) [10:00~12:30]

本大会では、特別セッションを募集いたします。特定のテーマや研究手法に関して研究者間の議論を行う事を目的としたものです。特別セッションを活用の方は、以下までご連絡下さい。

申請・問い合わせ先: nakatsuka@port.kobe-u.ac.jp 中塚雅也 (神戸大学)

※ 7月20日(金)までに申請ください。

国際ミニシンポジウムと同時刻の開催になりますので、ご注意ください。

6. 個別報告

10月13日(土) [9:00~12:00] (個別報告優秀賞対象報告を含みます。)

10月14日(日) [9:00~10:00 13:30~16:30] (終了時刻は変更することがあります。)

1. 報告は1件につき、30分(報告20分、質疑応答10分)を予定しています。
2. 同一筆頭報告者による報告は一報告に限ります。
3. 個別報告の申し込み方法、プレゼンテーション用ファイル(PDF)の送付、個別報告論文投稿等については、【別紙】の1・2を参照してください。
4. 個別報告優秀賞は、大会時点(2018年10月13日時点)で37歳未満の若手会員が対象です。個別報告優秀賞応募の方法については、【別紙】の3を参照してください。

7. その他連絡事項

(1) 宿泊について

事務局では斡旋いたしません。各自でご予約ください。

(2) 昼食について

10月12日(金)、13日(土)はキャンパス内の生協購買部、コンビニ、レストランが営業しております。14日(日)はレストランのみ営業しておりますが、近隣に食事処も多くあります。なお、土日のキャンパス内レストランは14時までの営業となっておりますので、ご注意ください。

(3) 大会期間中の保育／託児室設置について

今大会では、お子様同伴で参加を予定される方のために、有償で利用可能な保育室の設置を予定しています。保育室の利用をご希望の方は、必ず9月6日(木)までに、下記の申し込み先へお子様の年齢・人数と利用日時をお知らせいただいております。

事前の申し込みがあった場合にのみ、保育室と保育係を準備いたします。なお、個人負担額は1日：5000円、半日 3000円です。申し込み先：大会事務局 土田志郎 (s3tsuchi@nodai.ac.jp)

(4) 東京農業大学キャンパスへの交通手段について

会場までのアクセスについては東京農業大学 HP のアクセス情報(世田谷キャンパス)をご参照ください。

<http://www.nodai.ac.jp/campus/map/setagaya/>

http://www.nodai.ac.jp/access/map_s.html

○小田急線

経堂駅下車徒歩 約 15 分、千歳船橋駅下車 徒歩 約 15 分 バス 約 5 分 (千歳船橋駅～農大前)

東急バス：渋谷駅行 (渋 23)、等々力操車所行 (等 11)、用賀駅行 (用 01)

○JR 山手線

渋谷駅下車(渋谷駅西口) バス 約 30 分 (渋谷駅～農大前)

小田急バス：成城学園前駅西口行 (渋 24)、調布駅南口行 (渋 26)

東急バス：成城学園前駅西口行 (渋 24)、祖師ヶ谷大蔵駅行 (渋 23)

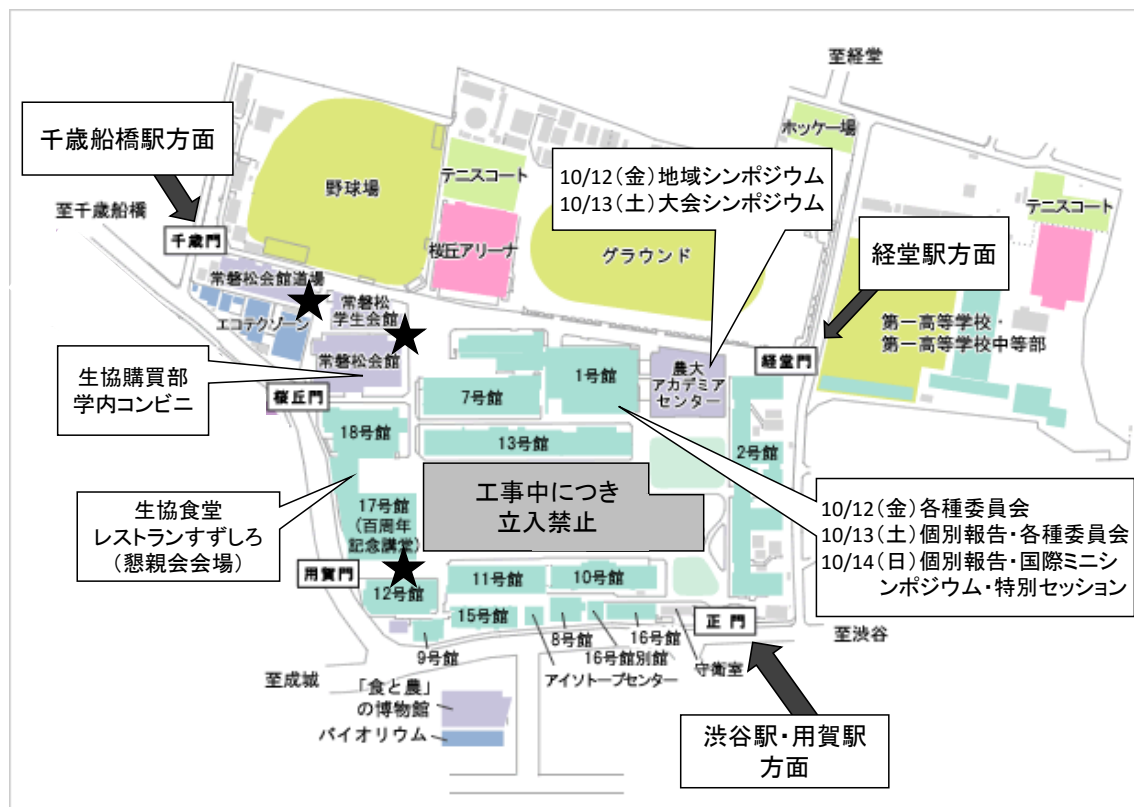
○東急田園都市線

用賀駅下車 徒歩 約 20 分 バス 約 10 分 (用賀～農大前)

東急バス：祖師ヶ谷大蔵駅行 (用 01)、渋谷駅行 (渋 22)

○キャンパス内に駐車場、駐輪場はありませんのでご注意ください。

○キャンパス内マップ



・経堂駅方面からは「経堂門」を、千歳船橋駅方面からは「千歳門」を、渋谷駅・用賀駅方面からは「正門」をご利用ください。

・喫煙所は★の3カ所になります。それ以外の場所はすべて禁煙になります（なお、大会期間の10月時点で変更となっていることもあります、ご注意ください）。

・現在、キャンパス内建設工事のため立入禁止区域がありますのでご注意ください（なお、大会期間の10月時点で立入禁止区域が変更となっていることもあります、ご注意ください）。

【別紙】

各申し込みの先の URL・提出期限および連絡先一覧

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：7/27（金）23:00）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/331d723232976>

パスワード【20180727】

個別報告で用いるプレゼンファイルの提出（締め切り日時：10/5（金）23:00）

登録 URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/1d394ab732977>

パスワード【20181005】

個別報告「大会前原稿」の提出（締め切り日時：10/5（金）23:00）

登録 URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>

パスワード【20181005】

個別報告申し込み、プレゼン用ファイル提出、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

hisashi@okayama-u.ac.jp 駄田井久（岡山大学）（企画担当理事）

個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

editors@a-rafe.org 地域農林経済学会常任編集委員会

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付等に関して

（1）個別報告の要旨原稿の様式

1. 要旨原稿のフォーマットは、本学会HP（<http://a-rafe.org/>）の「学会誌」にある個別報告要旨様式（作成要領・見本）を参照して下さい。
2. 要旨原稿は、ワープロで作成したファイルを、必ずPDFファイルに変換して下さい（A4サイズ、1枚）。

ファイル名は、下記の事例を参照して下さい。

例）（単独の場合） ○○大学・農経花子.pdf

（複数の場合） ○○大学・農経花子他.pdf

また、所属機関の書き方は、下記の事例を参照して下さい。

例）（社会人の場合） ○○大学、 ○○研究所

（大学院生の場合） ○○大学大学院

（学部学生の場合） ○○大学△△学部

（日本学術振興会特別研究員の場合） 学振特別研究員・○○大学

個別報告要旨は学会HPにアップし、大会期間中は受付場所で閲覧できるようにしておきます。

（2）個別報告の申し込み方法

1. 申し込みおよび要旨原稿ファイル（PDFファイル）の提出は、webで行ってください。
2. フォームの「IX個別報告要旨のファイル（PDF形式に限る）を添付してください。」の欄では、参照のボタンをマウスでクリックし、要旨原稿ファイルを選択して下さい。
3. 「送信する」のボタンを押した後、返信メールが、連絡先メールアドレスに送られる仕組み

になっています。数時間たっても連絡先メールアドレスに、受付完了のメールが届かない場合には、再度申請をお願いいたします。

4. 「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」入力に関しての質問は、電話では一切受け付けていません。また、入力ミスへの修正対応はできません。
5. 筆頭報告者には、会員の資格が必要です。非会員の方には、入会手続きをお願いいたします。個別報告の申込期限（7月27日（金））までに、入会金と年会費の納入が必要です。詳細は、地域農林経済学会 HP を参照ください。

（3）個別報告で使用するプレゼンテーション用ファイル（PDF）の送付について

1. 個別報告でPDFファイルをプレゼンテーションに使用する場合

☆プレゼンファイルは、PDFのみです。PowerPointファイルは使用できません。

- ① 個別報告会場に備え付けのプロジェクターとPC（OSは、Windows7, 8, 8.1, 10のいずれか）で報告していただきます。**持ち込みPC、タブレット、OHP等には利用できません。**
- ② PDF用ソフトは、Adobe Reader 8 (Ver8.1.2), Adobe Reader XI (Ver11.0.11), Adobe Reader DC (Ver2015.016.20039)およびMicrosoft Edge (Windows 10のみ) のいずれかです。PDFファイルを使用する場合であっても、紙媒体の配布資料も用意することが望ましいです。
- ③ PDFファイルのプレゼンテーション用原稿は、当日の混乱を避けるため、10月5日（金）23時までに、webで提出してください。

事務多用のため、締切り以降は受け付けません。また、当日のファイルの差し替え等も受け付けるとはできません。会場でのPC使用の便宜のため、PDFファイルには、下記のように名前を付けておいてください。

例) 報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第1会場の第1報告の場合

（単独の場合）特0101・農経花子.pdf

（複数の場合）特0101・農経花子他.pdf

報告者が、一般報告に応募で、第3会場の第6報告の場合

（単独の場合）0306・農経花子.pdf

（複数の場合）0306・農経花子他.pdf

- ④ ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をしてください。

2. 個別報告で紙媒体を用いる場合

従来通り、聴講者数分の部数を用意して、当日報告会場に持参してください（事務局では印刷は行いません）。

2. 個別報告論文としての投稿に関して

※詳細な投稿方法や原稿作成要領等については、学会 HP を随時参照してください。

1. 「地域農林経済学会大会個別報告論文投稿要領」（学会 HP に掲載、以下、個別報告論文投稿要領と略す）の2にしたがって、「大会前提出原稿」を作成し、10月5日（金）23時まで（郵送の場合は消印有効）、個別報告座長宛てに1部送付（メールまたは郵送）して下さい。個別報告座長については、学会 HP で確認してください（9月中頃掲載予定）。「大会前提出原稿」を

作成する際には、学会 HP に掲載されている「個別報告論文テンプレート」を用いる必要があります。

2.併せて、「大会前提出原稿」は、10月5日（金）23時まで、インターネット経由で提出してください（PDF ファイルに変換のこと）。

3. 当該 URL は、<<https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>>です。パスワードを聞いてきますので、「20181005」と入力してください。

（当該パスワードは、極めて重要ですので、くれぐれも管理にご注意下さい。）

なお、本学会HPの「研究大会」－「個別報告申し込み要項」からも上記URLにリンクしていますので、そこから利用して頂くことも出来ます。

4. PDF ファイルには、下記のように名前を付けておいてください。

例）報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第1会場の第1報告の場合

（単独の場合）特 0101・農経花子.pdf

（複数の場合）特 0101・農経花子他.pdf

報告者が、一般報告で、第3会場の第6報告の場合

（単独の場合）0306・農経花子.pdf

（複数の場合）0306・農経花子他.pdf

5. ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をして下さい。

6. 大会終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については、大会前に常任編集委員会から投稿案内がメールにて送付される予定です（本学会 HP でも告知します）。個別報告論文の書き方・提出方法等については、本学会 HP に掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」および「個別報告論文投稿要領」に従ってください。

7. 連名報告での報告者の順位と、個別報告論文での執筆者の順位は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。

3. 個別報告優秀賞の応募方法について

個別報告優秀賞に応募される方は、「大会前提出原稿」の提出が必須です。「大会前提出原稿」の提出がない場合には、一般報告扱いになります。申し込み方法は、一般の個別報告に申し込まれる方と、同様です。個別報告を申し込まれる際に、「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」の以下の3項目に必要事項を記入し送信してください。

➤【Ⅷ個別報告優秀賞への応募を希望しますか？】

➤【「はい」と希望した場合には、2018年10月14日時点での筆頭報告者の年齢を入力してください。】

➤【今回の応募は、研究論文等として投稿中の研究ではありませんね？】

なお、個別報告優秀賞への応募できるのは、2018年10月14日時点での筆頭報告者の年齢が37歳未満の場合です。また、すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意ください。